

生涯現役

北九州市
生涯現役
夢追塾

19^{期生}

北九州市
生涯現役
夢追塾



www.facebook.com/yumeoijuku/
夢追塾ホームページ www.yumeoi.org/

お問い合わせ先

北九州市生涯現役夢追塾 事務局 〒805-0071 北九州市八幡東区東田2丁目5-7 (NPO法人 里山を考える会 内)
TEL.093-662-3100 FAX.093-662-3800 Mail:info@yumeoi.org

※「生涯現役夢追塾」は、北九州市より指定管理者の指定を受け、「北九州市社会福祉協議会・里山を考える会 共同事業体」が運営を行っています。

卒業生に 期待 すること

生涯現役 夢追塾
名誉塾長

武内 和久



生涯現役夢追塾は、夢や志のある50歳以上の方々がこれまで培ってこられた豊かな経験を生かし、生涯現役で活躍されることを目指し、平成18年度に開塾しました。長年にわたり活動を支えていただいている関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

卒業生の皆様はカリキュラムを通して知識や経験を深め、塾生同士や先生方、先輩卒業生や地元大学生とも積極的に交流され、幅広いネットワークを構築されたと思います。

昨年7月には私も講演させていただきましたが、「北九州市とともに一歩踏み出した気持ちになれた」という声をいただき、大変心強く感じました。

今回の学びをふまえ、年齢にとらわれず、経験を積んだ今だからこそできる新たな挑戦により、彩りある人生を目指すとともに、地域や社会を支え、多世代を繋ぐリーダーとして活躍されることを期待しています。

北九州市は「つながりと情熱と技術で、『二歩先の価値観』を体現するグローバル挑戦都市」を目指す都市像とし、その実現に向けて様々なアクションを起こしています。その成果の一つとして、令和6年の北九州市の人口の社会動態が60年ぶりにプラス492人の転入超過となるなど、元気な北九州市の姿を全国に伝えることができました。

これもひとえに、先人たちの多大なるご努力と、生涯現役夢追塾に関わる皆様をはじめ、この街のもつ力、人の持つ力の賜物です。

この勢いをさらに大きくするには、皆様のように、夢や志を持って挑戦を続ける熱い気持ちと「アクション」が極めて重要です。今後も、北九州市の明るい未来に向け、力を合わせてまいりましょう。皆様の今後の活躍を心から応援しています。

すでに突入している長寿社会においては、仕事や家庭だけでなく、自分たちの住まう地域社会で市民一人一人が役割を持ち、活動していくことが必要とされています。

特にシニア世代は、本人も気づいていない様々な資源を持っており、それらを地域で活用することが期待されています。

生涯現役夢追塾ではそんなシニア世代がこれまでにない学び方で、自分の資源価値に気づき、同じ志を持つ仲間を作り、地域で夢を実現させることをミッションにしています。

シニア世代がいっきに夢を実現し、社会に貢献していくことが、長寿社会をよりよい世界に導くことにつながると信じています。

夢追塾のミッション

北九州を離れて初めて、その良さに気づいた岩下さん。単なる北九州愛にとどまらず、「この街をもっと元気にしたい」と強く思い、行動を重ねてきた。ボランティア活動が続ける中、会社の先輩の紹介で夢追塾と出会い、入塾を決意。同じ志を持つ仲間とともに「北九州の魅力」を発信するプロジェクトを計画中だ。「文章を書くのは苦手」と語る岩下さんだが、細かい情報まで逃さない情報収集力や、データを整理し的確に伝える資料作成力がある。「裏方としてチームを支える役割を果

たしている」と謙虚に話す。自分の強みを理解し、それを活かして貢献する姿に、自信と情熱が感じられた。また、活動を進める中で、岩下さん自身も初めて知る北九州の魅力に多く出会ったという。それは、遺跡や公共施設の充実など、多岐にわたる。プロジェクトが実行に移り、岩下さんが発見した「新たな魅力」を知ることができているのが今から楽しみである。

岩下さんは「北九州市の発展」にやりがいを感じ、行動を起こしているが、それは自分の余裕が持てる範囲でと決めている。その言葉に、ただ「好き」だけで突き進むのではなく、公私のバランスを取ることの大切さを学んだ。さらに、「これが自分の強みだ」と力強く語る姿は、とてもかっこよかった。人には「できること」と「苦手なこと」がある。でも、「できないこと」に囚われるのではなく、「できること」を極めればいい。そう気づかされた私は、岩下さんのように自分の「これだ」と言える強みを見つけ、磨いていきたい。

インタビュー／草本 彩花
(北九州市立大学経済学部3年生)



そつと支え、 確かに繋ぐ、 縁の下の 名プレイヤー

いわしたよしひろ
岩下 良浩さん

偶然昨年の塾生がする地域の祭に立ち寄り、それがきっかけとなって夢追塾に参加した大塚さん。夢追塾を通して、長く北九州に住んでいても知ることがなかった地域に関する知識を得て、以前よりも自分の住む地域に対する興味が湧くようになったという。そんな大塚さんは、今では自ら休日を利用して、地域で行われている講演会や報告会に参加しており、わからないことは積極的に聞いたり調べたりして、地域に関する知識や関心を膨らませ続けている。夢追塾では、孤独や孤立

の問題を抱える人達に寄り添えるようなコミュニティカフェの創設を考えている。卒業後は、自らが先頭に立って地域に寄り添った企画を立て実現したいという。その夢のために、夢追塾での学びを活かしたい。企画づくりや講演会などのへの参加を通して培っている人脈や知識や経験を自分の夢の実現につなげたいという大塚さんの探究心は続く。

私は、歳を重ねるにつれて新しい活動に対する意欲が落ちたり、新しい意見や知識の吸収や理解をしづらくなっていくのではないかと思っていたが、このインタビューを通して、年齢は関係なく全ては自分次第だと思ふようになった。夢追塾はそれを助ける場になっている。日々知識を吸収し続け夢のために足を止めない大塚さんは、力強く、かつこよく見え、それと同時に、自分のなりたいた将来像が少し具体的になったと思う。

インタビュー／森 晃政
(北九州市立大学経済学部3年生)



溢れ出る 地域への想いと 探究心

おおつかたかこ
大塚 貴子さん

義足ユーザーである櫻さんは、チャレンジ精神を大切にしており、2020オリンピック開会式での選手先導や、ラジオパーソナリティなど様々な場面で活躍している。知り合いの夢追塾OGからピッタリだと誘われて入塾を決意した。入塾前は、どんな考えを持った人たちと交流できるのかとてもワクワクした気持ちを持っていた。入塾後は、初めましての人たちとゼロから企画をスタートさせることの難しさを実感したという。それぞれが全く異なる考えを持つ人たちとの意見のすり合わせに苦労したことから、自身が新

しいプロジェクトを始めるときは事前に自分の考えをきちんと伝えることを何より大事にしたいという。卒業後は、一生できるスポーツであることからパラリンピックのゴルフ競技への出場を目指している。そんな一生歩みを止めない櫻さんは若い人たちに向けて、いろんな人と出会って行動してチャレンジして、人生を楽しんでほしいと語る。



人生は チャレンジの 繰り返し

さくらたかこ
櫻 たかこさん

下川さんは、わつしよい百万夏祭りの際知り合った先輩塾生の勧めで入塾した。開催日時が土曜日で、仕事と被らないことから入塾を決意したそう。入塾前は、自分の想いを語ることが得意ではなかったが、塾での活動で想いを語る中で自分の夢ができた。それは、「自身が輝くこと」。そのために自身の書道教室を開くことと、自分の作品を出展し、多くの人に見てもらうことだ。下川さんは元々書道に取り組んでいたが、今までは書いて終わりだった。しかし、夢追塾で他

の塾生やコーディネーターに触発され、北九州を元気にしたい、教室を開き、自分の作品を見てもらいたいと思う様になった。これまでは「誰かのため」に福祉の仕事を頑張ってきたが、これからは「自分も輝く」ために書道の活動をしたいと語っている。現在、夢を叶えるために今年4月の市の美術祭に自身の作品を出展する予定だ。書道教室の開催はまだまだ先だが、一歩ずつ夢に向かって挑戦し続けている。

輝くために、 筆を執る

しもかわりえ
下川 利恵さん



インタビューを通して櫻さんは、チャレンジすることを続け、歩みを止めない人なんだと感じた。どんなに困難な状況にあっても途中で逃げ出さず自分にできることをする。そして常に自分が成長できる環境に身を置きたいと考えている。櫻さんから、「チャレンジしたい」という自分の気持ちに素直になることで、同志や尊敬する人に出会えて夢を実現できることを学んだ。私もこの姿勢を見習い、チャレンジする人でありたいと思った。



にしやまちほ
インタビュー／西山 千穂
(北九州市立大学経済学部3年生)

下川さんは夢追塾に入塾したことで新たな夢を見つけた。だからこの1年を「出会い・感謝」とまとめた。インタビューの中で夢を語っているその姿は、これから夢の実現に向けて進む事への希望に満ちているように感じた。これから生きていく中で、私も様々な人の影響を受けるだろう。そしてそのことが自己実現に繋がるかもしれない。だからこの先、下川さんのように、今まで、これからの出会いに感謝していこうと思う。



ながのゆうき
インタビュー／永野 優希
(北九州市立大学経済学部3年生)

コーディネーターの方に誘われたことがきっかけで入塾を決めた永利さん。参加に躊躇いはなかったというものの自分の強い意思で入塾をした訳ではないため、他のメンバーとの熱量に差があったと言う。しかし、活動が続いていく中で、活動メンバーの異なった意見や考え方を知れたり、今までは目を向けられていなかった地域の問題を知ることができたりと勉強になることが多かったと振り返る。退職が近づくにつれ、退職後の人生を考える際に社会的弱者と呼ばれる人を助けることができた

ら良いなと考えるようになり、夢追塾での1年間の活動では、孤立した人を減らすことを目的として『おむすびカフェ』を設立した。メンバーそれぞれの得意なことを活かしながら地域の人が誰でも気軽に集まれる場所づくりを目指している。また、入塾をきっかけに地域への関心が深まったことで、民生委員の補助に挑戦してみたいと思うようになったと今後の目標を話してくれた。

学びが

つなぐ

新たな挑戦

ながとしくにかず
永利 邦一さん



夢追塾の説明を聞き、地域活動における斬新な取り組みに惹かれ、また自分の愛する北九州での活動という点が心に残り思い切って入塾を決めた。長年人事の仕事をやってきた名村さんは常々コミュニケーションが活動における一番の課題だと感じていたが、それは夢追塾においても同じだったという。言葉に対する認識のズレや思いの違いがあり、連絡媒体が統一されていない中で活動の方針を定めるのはなかなか大変だった。しかし、活動を重ねる中で、一人一人がグループ内の仲介役とし

ての意識を持ち、役割分担し、自発的に行動するようになり、プロジェクトが形になっていったという。名村さん自身も活動を通して、先入観を捨てて今起きている事象や他人の行動を受容し、咀嚼する力が育まれたと語る。名村さんはこの先、SNSを通じて北九州の魅力を発信することを考えている。夢追塾の経験をどう組み込んでいくか試行錯誤していくことも楽しみであると語る。

先入観を

捨て、

0から学ぶ

なむらまさゆき

名村 昌之さん



永利さんの学び続ける姿勢に感銘を受けた。夢追塾に限らず様々なボランティア活動を経験しており、それぞれのコミュニティでの学びや繋がりを大切に行っている方だと感じた。私自身、新しいコミュニティへの参加に消極的になってしまいうことが多々ある。しかし、コミュニティに参加すること、人脈や考え方が広がること、そしてその大切さを学んだ。今後は「迷ったらまずは挑戦してみよう」と勇氣付けられた。

えがわゆきこ
インタビュー／江川 由希子
(北九州市立大学経済学部3年生)



インタビューを通して、主体性を持つ大切さを改めて実感した。名村さんは、プロジェクトのための情報収集や情報の発信者として、人との繋がりを重要視していた。私はそこに、プロジェクトの円滑な進行と成功に対する名村さんの責任感の強さを感じた。それはコミュニケーションにおいて受動的である私に不足しているスキルであると感じ、主体性と責任感を持った名村さんの姿を手本に自発的な行動ができるようになりたいと感じた。

ささきりょう
インタビュー／佐々木 僚
(北九州市立大学経済学部4年生)



一昨年、福岡から転勤してきた野口さんは、北九州という街の魅力に感動している。職場の先輩からの誘いで夢追塾入塾を決めた。夢追塾の「生涯現役」「地域課題解決型のプログラム」がとてもおすすめでと感じている。例えば北九州には世界に誇る企業が数多あるが、B to B企業は一般の人にはその技術や凄さを知られる機会が少なく、北九州で働きたいと思っている若者に認知されていないケースが見受けられる。企業群は勿論、食べ物や自然や史跡、そこにある歴史や

ストーリー。こうした北九州の魅力をも「よそ者だからこそ」の視点で情報発信できないか、夢追塾のチームでぜひ形にしたいと思っている。夢追塾の研修で学んだ「住みたい地域は自分でつくる」という言葉を大事に、セカンドライフに活かしていきたい。



住みたい
地域は
自分でつくる

のぐちきく
野口 喜久子さん

お友達の誘いで夢追塾に再び挑戦した原島やよいさん。10年前にも入塾したが、自分には合わずに辞めた過去がある。しかし、仕事を辞めた後、老後に何もしないのは嫌だと考え、「何かしたい」という思いを抱いていた。夢追塾での学びがその準備になればと、再挑戦を決意したのだ。とはいえ、現実には厳しく、アイディアを出すことの難しさや、メンバーとの意見のすれ違いに何度も挫けそうになった。それでも続けられた理由―それは「人」の存在だった。同期の仲間、町内の

人々、孤独を感じる誰か、子育てに奮闘する親たち、そして今これを読んでいるあなたも、その「人」に含まれる。やよいさんにとって「人」は、何にも代えがたい人生の財産であり、その人たちのために何かをしたいという強い思いがあったからこそ、歩みを止めなかったのだ。

お金よりも
価値があるもの、
持ってます

はらしまやよい
原島 やよいさん



新聞社の仕事について質問した際、野口さんは立ち上がり、壁に貼られたポスターや身振り手振りを使って説明してくださった。予備知識のない私にも分かるよう工夫されている姿が強く印象に残っている。何かを伝える際には、うまく伝わらなかつたり、誤解されたりすることがある。だからこそ、相手の目線に立ち、最後まで正しく伝えようとする姿勢が大切だと学んだ。私も常に相手を意識し、伝え方を工夫しながら努力していきたい。



よぐらとしみ
インタビュー／與倉 利美
(北九州市立大学経済学部3年生)

「人脈が財産」「たらいの法則」―この二つの言葉が強く心に残った。これまで価値観の違う人を「苦手」と感じていたが、インタビューを通じて、その出会いも成長の財産になると気づいた。また、「たらいの法則」を知り、思いやりの行動が巡り巡って自分に返ってくることを実感。自分の行動が間違っていなかったと認められた気がして、気持ちが高揚した。これからは、より一層人とのつながりを大切にしていきたい。



くさもとあやか
インタビュー／草本 彩花
(北九州市立大学経済学部3年生)

30年間新聞記者として活動してきた林田さん。新聞記者を辞め、林田さんが求めたものは「新たな価値」だった。仕事を辞めた後も新しい価値を得たいと考えていた林田さんは夢追塾の存在を知り、入塾を決める。林田さんは夢追塾の活動で「チームで活動すること」を学べたと語る。新聞記者としての活動は単独のものが多く、チームとして活動することは極めて少なかったという。夢追塾では、年齢も違えば性格も考え方も価値観も違う塾生と意見を出し、話し合いを行

う。チームで活動する中で互いに意見がぶつかり合うこともある。しかし、この衝突によって、新たな価値が創造される。ぶつかったことで得られるアイデア、衝突を克服しようとすることで得られる価値がある。林田さんの人生の軸は「新たな価値」だ。性別も年齢も職業もバラバラのチームだからこそ予想外なものが生まれ、新たな価値が創造される。新たな価値は今もなお林田さんを魅了し続ける。

学びを
やめない

はやしだまさひろ
林田 雅浩さん



「人脈作りなる」と知り合いに紹介され知った夢追塾。事務局の方が直接説明に足を運んでくれたことをきっかけに縁を感じて入塾を決意した平島さん。当初は、看護師・産業保健師という経歴から「きつちりしなければならぬ」「こうするべき」という義務感や固定観念があったという。しかし、多様な塾生と関わるうちに少しの「遊び」や「曖昧さ」も許容できるようになったと語った。また平島さんはグループリーダーとして、一人の持つ情報量の差が話し合い

を阻害していると考え、まず情報のすり合わせを行うことを徹底した。さらに、声かけによって「一人一人が主役なんですよ」と意識してもらうことで、積極的な意見交換を促したのだという。現在、労働者が悩みを相談しやすい仕組みづくりにはより多くの人に傾聴スキルを広め、職場の仲間同士で悩みを相談し助け合える環境を作っていきたいと真剣なまなざしで夢を語った。

聴いて、
繋いで、
広がる未来

ひらしまみやこ
平島 美也子さん



林田さんのどんな環境でも学ぶことを続ける姿勢に感銘を受けた。仕事を辞め、夢追塾でも新たな価値を創造する林田さんの姿は印象的だ。自分が置かれた状況で自分の力を最大限発揮する努力をする人間に自分もなりたいたいと思う。今回のインタビューを通して得ることができた新たな価値を今後の生活に活かし、私も誰かに新たな価値を提供できるように努力したい。

いまむらはるか
インタビュー／今村 遥夏
(北九州市立大学経済学部3年生)



平島さんへのインタビューを通じて、固定観念からの脱却やグループ運営のポイントなど私自身参考にしたことがたくさんあり、学びを得られる良い経験になった。夢について真剣に語っている様子からは、労働者の健康を守りたいという強い意志を感じ、私も夢に向かって一歩踏み出す勇氣をもらった。今回教えていただいた「傾聴に必要なのは共感ではなく共感的理解」という知識は、これからの人生においても大切にしていきたい。

ひびたにはるか
インタビュー／日々谷 遙
(北九州市立大学経済学部3年生)



普段はアプリケーション開発の職場に勤務している平田さん。元々親交のあった「里山を考える会」の代表に誘われたことから夢追塾への入塾を決めた。夢追塾の講義では日常では使わない単語の意味を勉強して使うことに最初は戸惑った。だが、仕事の話しかしない職場のコミュニティと違って、いろんな人が集まる夢追塾では個人的な話題や自分とは違った経験に触れる機会が多く、興味の幅が広がったと語る。そんな平田さんは自身の会社を「地域のお祭で使われるアプリケーション

を普及させたい」という夢を持っている。予算がない小さな祭でも使えるようコストを大きく抑えたシステムを開発することで、イベントや景品や装飾などに予算が使えるようになるはずだと見込んでいる。それによって人口減少や物価高の中でも地域のイベントが活発になって、地域やコミュニティの活性化に結びつくのではないかと。平田さんの大きな夢は、地域の夢につながっている。



66歳の 大きな夢

ひらのりみつ
平田 教光さん

堀江さんは家庭の事情で天職だった保育士を辞め、高齢者支援のために資格取得や活動に参加するも、自分の中のモヤモヤが消えずにいた。夢追塾を知り、直感的に「今の自分に足りないものがここにあるかもしれない」と入塾を決意。はじめは、メンバーの凄さに圧倒され、講座内容にも、そのあとの塾生同士のコーチングに難しさを感じたという。だが、「人生グラフ」の作成では、自身の困難を人との出会いで乗り越えてきたという気づきを得て、自分にとって大事なものを再認識で

きた。また、チームでの活動を通して、皆の意見を聞いたり自身の考え方が柔軟になったことで自分が求めていること、進む方向が明確になったという。堀江さんが参加する傾聴ボランティアでは、支援する側という視線ではなく自身も気づきやヒントを得る相互関係を築いていきたいと考える。第一に心身ともに元気であることを掲げ、自分のやりたいことをして生きていきたいと語る。



出会いが 生んだ 気づきの連鎖

ほりえけいこ
堀江 啓子さん

「日本初とか世界初のもので作っているの、めっちゃくちゃやりがいがあります」と平田さんは語っていた。この言葉は新しいことに挑戦することに対して平田さんが抱いているワクワク感や達成感、情熱の全てが込められているように感じた。技術を駆使し、地域の活性化に挑む姿勢に感銘を受けた。若者と地域をつなげ、交流を生み出すその挑戦は未来の地域社会をより豊かにする可能性を秘めている。平田さんのポジティブさに憧れる。



よぐらとしみ
インタビュー／與倉 利美
(北九州市立大学経済学部3年生)

堀江さんの話を通して、「気づき」と「出会い」が人生を変える力があると改めて感じた。自分も迷ったときは環境を変えることで、新たな道が開けるのではないかと思う。特に、「人生グラフ」で自分の歩みを振り返り、気づきを得たことで腑に落ちたという話が印象的だった。傾聴ボランティアのように、相手を支えながら自分も成長できる関係を築く姿勢にも共感する。自分も常に学ぶ姿勢を持ち、気づきの連鎖を大切にしていきたい。



なかのよな
インタビュー／中野 純波
(北九州市立大学経済学部3年生)

北九新発見フォーラム

チームメンバー	名村昌之・岩下良浩・下川利恵 野口喜久子・平田教光
共有目的	北九州の隠れた魅力・地域の宝物を仲間と共に、 発掘・SNS発信することにより、「地域ファンを増やし、 北九州を輝かせる」為の活動をする
戦略的ゴール	オール北九州視点の情報として、 「新参者 なむさんマップ」第一弾を公開
オーガナイズ・ センテンス	2019年に横浜から引越しをしてきたなむさんは、北九州 を知れば知るほど好きになりました。時間と手間暇をかけて 調べた体験から、転勤者や初めての訪問者ですぐに わかる形で、なむさん目線の魅力的な情報を発信する為に 「新参者 ナムさんマップ」を提供します



おむすびカフェ

チームメンバー	平島美也子・大塚貴子・櫻たかこ 永利邦一・原島やよい・林田雅浩・堀江啓子
共有目的	孤立を減らし、一人一人が繋がれる関係をつくれる 居場所づくり
戦略的ゴール	八幡東区竹下町で民家をつかつての居場所づくり
オーガナイズ・ センテンス	地域に新たな繋がりをつくることで、孤独を感じる人を 減らしていきたい、と構想された取り組みです。飲食の提供 やイベント、傾聴などを通じて地域の中で人と人と結んで いきたい、それが「おむすびカフェ」です。



大学生

北九州市立大学



夢追塾

第19期生

背中を見る人プロジェクト紹介

我々、北九州市立大学経済学部
松永ゼミの学生は、「背中を見る人プロジェクト」として、夢追塾に参加しました。時にはみなさんがプロジェクトを作っていく過程を観察し、時には一対一で対話をし、時には発表に対するフィードバックを行いました。また、課程修了後には、夢追塾で学んだことやこれからの夢について塾生にインタビューを行い、記事を作成しました。こうした活動を通じ、塾生と学生はお互いにプラスの影響を与える関係を築けてきたように思います。企画し実践することも学びです。観察することも学びです。世代を越えて対話することも、大きな学びです。この冊子はそうした学びの結果をまとめたものです。夢追塾の魅力と共に、活動をすぐそばで見てきた学生から見た塾生の姿をお伝えしたいと思います。

北九州市立大学 経済学部
松永ゼミ生一同

松永ゼミ生

今村 遥夏	いまむらはるか
江川 由希子	えがわゆきこ
草本 彩花	くさもとあやか
佐々木 僚	ささきりょう
中野 純波	なかのみな
永野 優希	ながのゆうき
西山 千穂	にしやまちは
日比谷 遥	ひびたにはるか
森 晃政	もりこうせい
與倉 利美	よぐらとしみ

19期 塾生

岩下 良浩	いわした よしひろ
大塚 貴子	おおつか たかこ
櫻 たかこ	さくら たかこ
下川 利恵	しもかわりえ
永利 邦一	ながとしくにかず
名村 昌之	なむら まさゆき
野口 喜久子	のぐち きくこ
原島 やよい	はらしま やよい
林田 雅浩	はやしだ まさひろ
平島 美也子	ひらしま みやこ
平田 教光	ひらたの りみつ
堀江 啓子	ほりえ けいこ

コミュニティを創る「ボンド」と「ブリッジ」

北九州市立大学 マネジメント研究科

松永 裕己

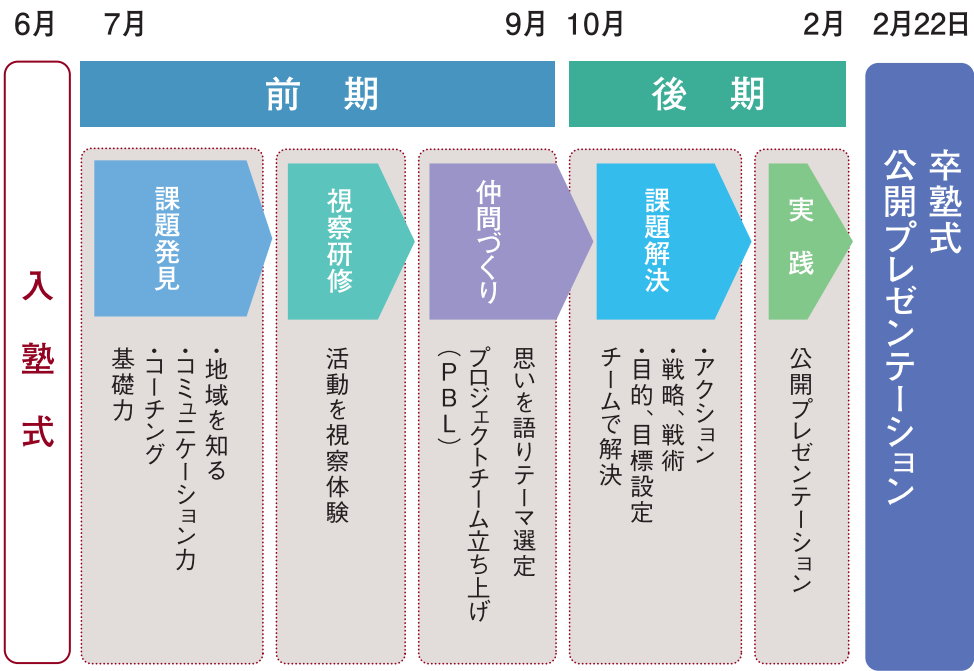
2011年の東日本大震災のあと、「絆」という言葉が頻繁に使われるようになりました。読売新聞の調査だと、全国紙の記事で「絆」が出てくる回数は震災後に倍以上になったそうです。テレビでもSNSでも「絆」は氾濫しました。私はこれがちよつと苦手でした。すごい田舎で生まれ育ったせいかもしれません。田舎では繋がりと助け合い意識が強い方で、逸脱が許されない雰囲気もあります。近所の誰もが自分のことを知っていて、常に見られているような息苦しさを感じ



じることもあります。絆が強すぎるウェットな関係はちよつと重たいのです。社会学者のバットナムは「ソーシャルキャピタル」という概念を広めました。これは信頼・社会規範・ネットワークといった人々の関係性を指します。『孤独なボウリング』という本の中で、彼はアメリカのコミュニティが希薄化していることを、ソーシャルキャピタルの減少という観点から分析しています。おもしろいのは、ソーシャルキャピタルには、ボンドとブリッジという2つの型があるという点です。ボンド型は人々を結合し内部の結束を高めるのに役立ちますが、閉鎖的になりがちです。一方、ブリッジ型は異質な人々を結びついたり異なる集団を繋いで新しいネットワークを形成することに役立ちますが、結束は弱くなりがちです。こうした状況は多くの人を経験したこと

があるでしょう。例えば、常連ばかりで新参者が入りづらい店や、誰にでも開かれているけれど「体感のないサークル」とか。理想的なコミュニティとはどのようなものなのでしょうか。ボンド型とブリッジ型のバランスがとれているのが一番良い気がしますが、そんな理想は実現可能でしょうか。難しいですよ。でも可能性はあるように思います。鍵を握るのは、コミュニティにはいろんな人がいるという当たり前の点です。好奇心旺盛でフットワークの軽い人はブリッジ型の役割を担い、馴染みのある環境を大切に人はボンド型を強化します。

夢追塾でも、こうした個性の違いがプロジェクトを進める中で役立ったはず。卒業後は、それぞれが地域で新しい取り組みを行うことになります。みなさんが自身の特性を活かし、どのようなコミュニティを築いていくのか楽しみにしています。



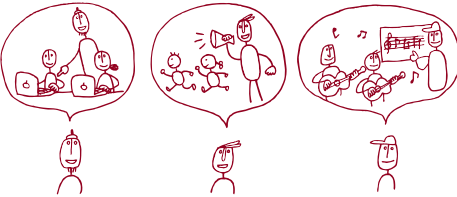
入塾対象者	概ね50歳以上で市内に在住する方もしくは、市内に勤務している(していた)方
受講期間	6月～翌年3月
定員	40名目安(書類審査と面接による選考があります)
受講料	年間5万円
講座会場	●スペースラボ ANNEX ●タカミヤ環境ミュージアム ●タンガテーブル ●子どもの館 他

楽しく、互いに、体験から学ぶ

夢追塾は、楽しく学ぶことをモットーとし、熱い思いを持った仲間と交流を深める場でもあります。仲間と楽しみながら取り組むことで学びが深まる。ここが魅力です。

POINT 1 自分を活かしてお役に立つ 🔍

これまで職場や趣味で培ってきた**知識や経験**、ネットワークなどの能力を地域で役立てます。



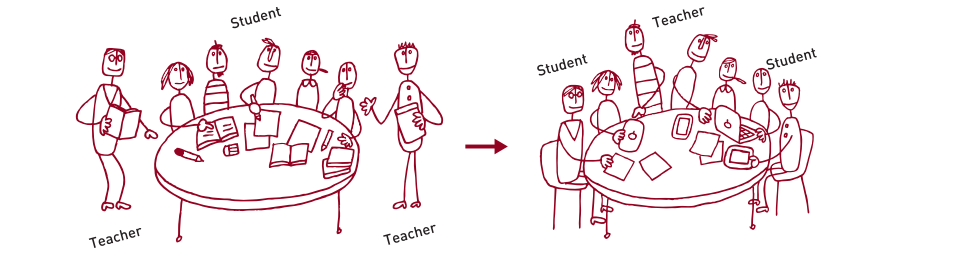
POINT 2 体験から学ぶ 💡

現場におもむいて調査・研究を行ったり、地域で活躍している団体の活動を実際に**体験**しながら学びます。



POINT 3 塾生同士で学び合う 📎

年齢、肩書きにかかわらず、塾生同士がフラットな立場で**互いに学び合う**仕組みがあります。



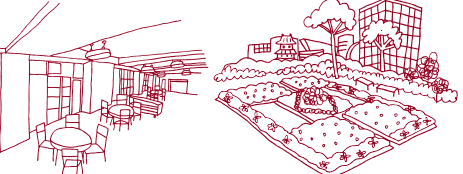
POINT 4 若者と互いに学び合う ⚙️

大学生などの**多世代**にも関わってもらい、違う感性から得られる「気づき」や「発見」を大事にします。



POINT 5 まち全体がキャンパス ☀️

夢追塾は**まち全体**が学び舎です。北九州市内のさまざまな施設を活用し、多様な学びの場を提供します。



楽しみながら地域で活躍!!



楠 稔幸さん
夢追塾9期生

誰もが気軽に
立ち寄れる
縁側カフェをオープン

塾で学んだ「仲間づくり」の方法で「若松TERAKOYAプロジェクト」を立ち上げました。地域の方に仲間になってもらい、大きなチカラをいただきました。安心して暮らせるまちづくりを目指しています。



岩田 智子さん
夢追塾9期生

共に楽しむ

舞踊の指導経験を障がいの有無、国籍に関わらず、誰もが輪をつくり笑顔で生活できる社会を目指しています。今後は「健康舞踊塾」を立ち上げ元気な北九州市民を増やしたいと夢見ています。



宮地 弘行さん
夢追塾17期生

空き家を再生して
住まいや居場所に
困っている人に提供する

夢追塾は多様な考え方の仲間たちと議論を交わす貴重な場でした。今、一般社団法人を立ち上げ「空き家を再生して住まいや居場所に困っている人に提供する」事業に取り組んでいます。

令和6年度リベラルアーツ講師

講師(敬称略)

松永 裕己
遠矢 弘毅
八百屋 さやか
武智 充
神田 美栄子
齋藤 貞之
林 澄江
矢ヶ井 那津 (猪倉実習学生)

所属

北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 教授
株式会社 家守舎 代表取締役
株式会社X都市研究所 主任研究員 博士(工学)
AIR STATION HIBIKI 株式会社 代表取締役
NPO法人ChanChan夢企画 理事長
NPO法人未来社会総合研究所 理事長
NPO法人nest 理事長
北九州市立大学地域創生学群 担当教員



19期コーディネーター



田崎 圭子



下田 良雄



久保 サチ代



雨宮 隆